

平成26年度

「未来の京都創造研究事業」

成果報告会・交流会

参加無料!

日時 平成27年3月17日(火) 17時~21時

場所 キャンパスプラザ京都 4階第3講義室(成果報告会)
[京都駅徒歩5分] 2階第2・第3会議室(交流会)

未来の京都創造研究事業は、「大学のまち京都」の『知』の集積を、京都の未来にとってよいことに活かそうという思いから始まった事業で、大学の研究者と京都市の担当部署との協力により、未来の京都づくりに向けた政策を創造するための調査・研究を行っていただいています。

このたび、平成26年度に行った6件の調査・研究テーマの成果を広く発信するとともに、大学や研究室の枠を超えた研究者同士の交流や研究者と市民、学生、行政職員等の交流を図るため、成果報告会・交流会を以下のとおり開催します。ふるってご参加ください!

1 成果報告会：17時~20時(1発表25分程度)

研究代表者	調査・研究テーマ	
佐伯 彰洋 (同志社大学法学部 教授)	指定課題	マイナンバー制度の導入に伴う個人情報の保護、管理、利用及び活用のあり方に関する研究
西村 雅信 (京都工芸繊維大学大学院 准教授)	指定課題	交流の場づくりによる商業者・市民の育成とネットワーク形成にかかわる実証研究
石原 一彦 (立命館大学政策科学部 教授)	指定課題	外国人留学生の大学卒業後の就業に関する動向の分析と自治体、企業及び大学における支援方策に関する研究
政木 哲也 (京都工芸繊維大学大学院 博士後期課程)	自由課題	京都市郊外の市営住宅とその周辺住宅地における空間構成と変遷について
杉岡 秀紀 (京都府立大学公共政策学部 講師)	自由課題	京都市における「フューチャーセンター」を活用した次世代型市民協働政策についての研究
柴田 昌三 (京都大学大学院地球環境学堂 教授)	継続課題	京都市内における住宅庭の環境及びその減少が街区の生物相に与える影響

●指定課題…未来の京都づくりに向けて京都市が指定したテーマ ●自由課題…研究者の提案による、未来の京都づくりに向けたテーマ

2 交流会：20時~21時

研究分野に基づいた交流ができ、今後のネットワークづくりにつながります

研究者と市民、学生、行政職員等との交流を深める場として、研究テーマごとに分かれて意見交換を行います。

3 参加方法

- 成果報告会：どなたでも参加できます。事前申込みも必要ありません。
- 交流会：どなたでも参加できますが、3月12日(木)までに以下のE-mailまたは電話でお申し込みください。

【問い合わせ先】

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 シンクタンク事業担当：水田、矢野
E-mail：mirainkyoto@consortium.or.jp TEL：075-708-5803

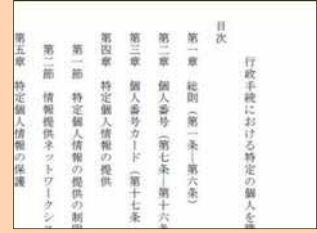
研究テーマの概要

指定課題

マイナンバー制度の導入に伴う個人情報の保護、 管理、利用及び活用のあり方に関する研究

同志社大学法学部 佐伯 彰洋 教授

2015年度から始まるいわゆる「マイナンバー制度」は、市民サービスを大きく変える可能性を持っており、個人情報をしっかりと守りながら、市民の皆様の利便性と行政の効率性を高めるためには、京都市が独自にマイナンバー制度をどう活用すればよいのか、京都市の職員と協力しながら研究しています。



指定課題

交流の場づくりによる事業者・市民の育成と ネットワーク形成にかかわる実証研究

京都工芸繊維大学大学院 西村 雅信 准教授



事業者を中心に、まちづくりに関心の高い生活者やクリエイターが交流する場づくりを通して、「地域の価値」の再発見と創造を推進するネットワーク形成や事業企画を図るプロセスをデザインするため、交流の場「フューチャーセッション『茶論案庵』（サロンアンアン）」を社会実験として開催し、議論を行いながら有効性の検証と持続可能なモデルを検討しています。

指定課題

外国人留学生の大学卒業後の就業に関する動向の分析と 自治体、企業及び大学における支援方策に関する研究

立命館大学政策科学部 石原 一彦 教授

立命館大学キャリアセンターと京都市・大学コンソーシアム京都の連携による研究体制で、京都の大学、現在と過去の留学生、企業へのアンケートやヒアリング、京都企業と留学生の交流の場などを通して、外国人留学生が日本企業に就職して活躍するためには何が必要か、どのような能力開発プログラムが必要かなどを研究しています。



自由課題

京都市郊外の市営住宅とその周辺住宅地における 空間構成と変遷について

京都工芸繊維大学大学院 博士後期課程 政木 哲也 氏



山科区や伏見区の市営住宅にて、実際に現地で丁寧に外観を調べるとともに、行政資料から分かる建設当時の状況と現状の違いを調べることで、市営住宅の屋外空間が周辺の住宅地とどう関わっているかを分析しています。これにより、それぞれの団地の持つ空間的な性質を比較し、その街が持つ雰囲気＝地域性の要因を抽出します。

自由課題

京都市における「フューチャーセンター」を活用した 次世代型市民協働政策についての研究

京都府立大学公共政策学部 杉岡 秀紀 講師

フューチャーセンターとは、組織を超えて、未来志向で対話をし、そこから生まれてきたアイデアを実際の形にしていく手法のことを指します。本研究では、そのフューチャーセンターに着目し、全国各地の取組を調査し、フューチャーセンターを活用した京都市における次世代型市民協働政策について提言を行うものです。



継続課題

京都市内における住宅庭の環境及びその減少が 街区の生物相に与える影響

京都大学大学院地球環境学堂 柴田 昌三 教授



昨年度の研究成果から、市街地において現在も比較的多くの町家が残存する地域では、町家を含む住宅の庭が緑の約4割を占めることがわかりました。そこで今年度は、身近な緑地として「京町家の庭」に焦点を当て、現地調査により、京町家の庭が生き物の生息地としてどのように機能しているかを考察しています。